

CTを使った 肺がん検診のはなし

- 13 -

最近のCTを使うと、私たちの身体を0.5mmの薄い層にして、診断することができます。このことは、おおざっぱに言えば、5mm大の病変を10枚に切り出すことができるということです。顕微鏡標本は、 μm (μm は、1,000分の1mm)のオーダーですから遙かにおよびませんが、X線画像の分解能(空間分解能)も随分良くなったなあ!というのが、私の実感です。



マルチスライスCT (4-DAS) の概要 ('02「日本胸部臨床」克誠堂出版より)

ここまで空間分解能が良くなると、何より具合がよいのは、10mm以下の小さな病変の質的診断ができるということです。より高い確率で、がんがんでないかを見分けることができます。肺がんには、いろいろな種類があります。発生のも、太い気管支に発生するものもあれば、末梢肺にできるものもあります。増殖速度の速いものも、比較的ゆっくりのものもあります。化学療法剤に反応するものもありますが、薬の効かないものもあります。

検診で見つかった肺がん候補病変が、どのような性質のもので、どのような精密検査法・治療法で望めば良いかを、CTで診断することができます。10mm以下の小さな肺がんは、その多くが早期がんですから、すぐ外科的に摘出した方が良いか、経過をみても良いかなどを、高分解能CTで決めることができます。

なぜ経過観察なのかは、次号でお話しします。(つづく)

Violinist 岩切陽子の音楽ひろば

～♪ たのしく心と体リフレッシュ♪～

『第2回 音楽ひろば』のようすご紹介

だんだんと秋めいてきた10月11日、第4期2回目の「音楽ひろば」が開かれました。

この日は先生にたいへんめずらしい楽器を見せていただきました。西アフリカにあるマリと

いう国の民族楽器の「ハーブ」(正式名「コラ」=写真)です。2オクターブの弦が21本も楽器

本体から垂直に張ってあります。音が響く丸い部分は、とても大きな木の実をくり抜いて作ってあります(調べましたら何とヒョウタンでした!)。先生も初めて手

に入れられた楽器で、今猛練習中だそうです。ステキなメロディを聴かせてくださる日が楽しみです。



今回2種目行ったコミュニケーションゲームをひとつご紹介します。“3拍子のリズムに合わせて、「1」で右手でオーガングースカーフを投げ上げて、「2・3」左手で上の方からつかむように取る”というゲームです。簡単なようですが肩から腕をかなり動かします。1曲分するとなかなかの運動量です。ひとりでも、向き合ってふたりでも(お互いが投げた布を取る)気軽にできると思います。ぜひお試しください。



マリの民族楽器「ハーブ」(正式名「コラ」)このように抱え込む姿勢で演奏します。音色は、とても心安らくやさしい響きです。

健康講座 「からだのリズムを整える」

講師：于海(Yu Hai)先生

北京出身・医師。
岐阜大学医学部にて研修(免疫病理)、
現在岐阜大学工学部(生命工学)にて研修中。

とき：第9回
2005年11月18日(金)
10:00～11:00

テーマ：「果物でなおよす」
参加費：無料
申込み：参加ご希望の方は、当診療所までご連絡ください。

Violinist 岩切陽子の音楽ひろば

第4期教室 開催中!

お気軽にお問い合わせください。

「第4期音楽ひろば」は下記の日程で開催中です。
参加をご希望の方は当研究所までお申し込み下さい。

<開催日>
'05.9月～'06.1月 第2火曜日(全5回)
・午前の部：10時半開始
・午後の部：13時半開始
<開催予定日>
第3回 11月 8日(火)
第4回 12月 13日(火)
第5回 '06.1月 10日(火)
<参加費>
前納制(全5回分・・・10,000円)
・1回のみ参加・・・2,500円

◎注目!◎「リラックス度チェック」
「音楽療法がこころとからだに与えるリラックス効果」を実感していただくために、音楽ひろばの開始前と終了後、看護師が「血圧、脈拍、体温、血中酸素、体脂肪率」を測定します。

<テーマ>
・「右脳さん、さあ起きましよう!!」
～音楽に触れることで右脳を刺激し、手や足、体の機能を活発にさせましよう!～
・「ヴァイオリンの演奏」
～心と体にやさしく響く音楽鑑賞～